
幸せを届ける黒い猫

デイウォーカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せを届ける黒い猫

【Nコード】

N9444I

【作者名】

デイウォーカー

【あらすじ】

”非日常”を否定する高校1年の俺が出会ってしまったのは、黒猫と呼ばれる不思議な美少女だった。

黒髪金眼の少女に会ったせいで始まってしまった受難な日々の記録。

えびろーぐ（前書き）

”非日常”を否定した俺が出会ったのは金の瞳を持った美少女だった！？

・・そうして始まった、気分屋な彼女と俺の非日常^{イレギュラー}＋受難な日々の日記。

ほとんどほのぼの、たまにシリアスの予定なので楽しんでください。

えびろーぐ

この世の中には噂、迷信、都市伝説などが無数に存在している。マンガや映画にだってファンタジーとか非日常を描くものが多い。だけどそれを本当に信じている人なんてほとんどいない。

俺はそんなもの信じたことはない。

小さい頃からサンタの正体は見破っていたし、ヒーローもののテレビに憧れたこともない。

そんなものはくだらない空想の世界の話だ。ずっとそう思ってきた。

けど・・・、

もしかしたら、その中に1つくらいは本当のことなのではないか。

俺が知らないだけで、どこかで不思議なことは起こっているのではないのか。

心の中でそんなものは無いと否定しながらも”それ”を求める。

そんな風にいつも頭の片隅で”イレギュラー非日常”を求める声がしていた。

止まない声を見殺ししつつ俺は素晴らしくも緩慢な日常を歩み続ける。

もつすべその日常が壊れることも知らずに・・・。

えびろーぐ（後書き）

処女作です。

なにか思つことがあったら、どんどんコメントください。お願いします。

日常の始まり

「ふあゝゝ。・・・眠い。」

俺こと双葉宗佑は自分の席でダウンしていた。
ふたばそつすけ
今はホームルームの後。・・・よし授業まで寝るか。

「ドン!!」また寝ようかと思い、目を閉じたところで背中に
衝撃が来た。

「宗佑、宗佑! ねえ訊いた訊いた? なんとあのくろね・・・・・・・・..
おい、訊いてる??」

話しかけてきたヤツは同じクラスの藤堂薫、
とうどうかある
何かあるたび俺を巻き込む・・・・というか今回もきつと現在進行形で巻き込もうとしているのだろう。

「チッ。で、何なんだよ今回は?」ジト目で睨む。

「黒猫が出たんだって。あの噂の!」まったく気にしない薫。

・・・また黒猫か・・・。

黒猫。最近この聖凜高校や周りの地域で噂されているらしい。

一説では夜、薄暗い道を歩いていると襲ってくるだとか。

金の瞳を持った野獣だとか、はたまたネコ耳のついた美少女だとか数十説もあるらしい。

3つ願いを叶えてくれるなんてものまである。これが本当ならおれの願いも叶えて欲しいものだ。

「またかよ。どうせ誰かのイタズラとかだろ。」

そんなファンタジーみたいな現実にはいねえだろ。

「はあ。わかってないなあ。宗佑は。今までとは違って黒猫はいるのよ!!」と力説する薫。

「オイ。お前今までとは違ってあと何回いうつもりだ？」
そのセリフは俺が覚えてるだけでも17回も言っている。

「え？え〜と、本当にいるまで？・・・ってそんなことはどうでもいいんだあー!!」

探しに行こうよ。ねえねえ??」

・・・まずい、いつもと同じパターンだ。逃げなくては。

「あゝ、すまん今日は用が7時に家に行くから。じゃあねー!!」・・・オイ。」

結局いつものように付き合うことになってしまった。薫はすで

に自分のクラスへ帰っている。

薫はいつもそうだった。UFOとか化け物と訊くと目の色を変えて探しにいくこうと誘ってくる。

もちろん俺の意見なんて訊いちゃいない。

それにしても飽きないやつだな。そんな噂なんて眉唾モノだろうに。

もしかしたらアイツまだサンタとか信じているんじゃないのか。
・・・・・・・・・・・・・・・・なんかありえそうで少し怖い。

それにしてもまったく信じていない俺がなぜそんなモノを探しに行かないといけない。

他のオカルトマニアとか誘えよ。正直めんどくさい。

でも約束すつぱかすと報復が怖いからなあ。適当に付き合うか。

そして放課後。

とりあえず懐中電灯を用意しておいた。というかどこへいくか訊いてねえ。

「そ〜すけ〜。いくぞおーー!!」俺の横にはハイテンションな薫^{あいつ}。

「なにやってんの。早くいこー!」

「だからどこ行くん」「私についてこ〜い♪」人の話をきけえええー!」

そうして俺は非日常^{イレギュラー}への一步を踏み出した。

日常の始まり（後書き）

つたない文章ですけどがんばるので見捨てないでください。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9444i/>

幸せを届ける黒い猫

2010年10月10日04時12分発行